

令和3年度 第2回北杜市総合計画審議会(書面開催) 意見回答

(1)資料1 第3次北杜市総合計画基本構想骨子案について

No.	委員名	頁	委員意見	理由	回答（所管課の考え方）
1		1	〔質問〕【1-3 計画の構成・期間】において基本構想は「長期ビジョン」。基本計画は「中期ビジョン」とされています。「長期ビジョン」は「2030 年、北杜市のありたい姿」かと思いますが、「中期ビジョン」に対応するのは何でしょうか。		10 年間の計画期間である基本構想をまちづくりの「長期ビジョン」として示したときに、その将来像の実現に向けて施策の大綱を体系づけてとりまとめた 5 年後の中間地点までの基本計画を長期ビジョンに対応した表現として「中期ビジョン」と位置付けたものです。
2		1	〔質問〕バックキャストイングの手法を取り入れるということは、将来人口目標も、蓋然性の高い目標というよりは、創造的破壊がなければ達成が相当に困難な目標という位置づけ（認識）なのでしょうか。		お見込みのとおりです。課題を解決するスタンス（フォアキャストイング）では、大きな飛躍につなげることは難しいため、バックキャストイングを採用し、これまで以上に高い目標を設定し、市職員や市民の気概・モチベーションを醸成し、チャレンジする機運を高め、成果につなげていきたいと考えています。
3		1	〔意見〕達成が相当に困難な目標である場合、本計画では質・量ともに従来とは一線を画しスピード感ある取り組みが不可欠であると考えます。	バックキャストイングの手法を取り入れる以上、目標達成には創造的破壊が不可欠であるため。	ご指摘のとおり、スピード感のある取り組みが不可欠と認識しています。 一方、それぞれ行政にとっては難しい課題解決を求められています。試行錯誤した結果、より最適な手法に変えていくスピード感が求められるため、重点プロジェクトの評価のサイクルを早める工夫を検討したいと考えています。
4		2 3	〔意見〕未来の北杜の姿（目指すべき将来像）、基本コンセプト、スローガン、8 つの視点、リーディングプロジェクト・基本プロジェクト（先導的なプロジェクト）の相互の関係性が不鮮明なので、一層の整理をお願いします。 また、基本方針と全体構成イメージとでは、イラストが異なったり、同じ対象の表現方法が微妙に異なったりしているので、この点も確認、整理をお願いします。	市民に認識、活用される計画とするには、明瞭さが不可欠であるため。	ご意見を踏まえ、イラストなども含め明解かつ関連性がわかりやすい展開となるよう整理します。
5		3	〔質問〕「SDGs の理念を踏まえる」、「SDGs×」とありますが、これは具体的に何を意味している（つまり、どのように「踏まえ」、「×」（相乗効果!?）を狙っているのでしょうか。		お見込みのとおりです。 持続可能な社会を構築していく上での共通の理念である SDGs の考え方が、これからの市政推進のコンセプトとも調和し、それらを掛け合わされることにより相乗効果が期待できるものと考え、こうした表記としています。

6		2	【4-2 2030 年の北杜市のありたい姿（目指すべき将来像）】の中で防災に強いまちづくりを入れてほしい。	防災は、大きな課題です。3 ページのリーディングプロジェクトの中には防災の文言が入っており、部門別計画においても示されていますが、未来の北杜市を語る上で、防災の文言が入っていた方が、安心して暮らせるまちをアピールできると思われるため	市ではこれまでも防災・減災対策を重点施策として位置付け、2 次総合計画や国土強靱化地域計画に基づき取り組んできたところです。 3 次総合計画においても、「2030 年、地域のありたい姿」として【安心をずっと、サステナブルなまち】、リーディングプロジェクトとして【⑤変化に強い安心できるまちづくり】を位置づけ、「地域の防災意識が高まり活動が継続的に行われ、万一来備えている」「災害や感染症などの緊急事態に対して柔軟に対応できる体制や仕組みが整っており、変化に強いしなやかな地域となっている」などの将来像を実現するため、重点プロジェクト【LP5-1 強靱な地域をつくる】に取り組んでまいります。
7		1	【1-1 総合計画の位置付け】及び【1-3 計画の構成・期間】について、従前の総合計画と下位の計画、総合戦略等との関連を文章ではなく図表などで分かりやすく明示されたい。	従前の総合計画、総合戦略、下位計画等との関連性がわかりづらい。時系列にそって表記していただきたい。（市町村の変遷表のようなイメージ）	資料 1 については、基本構想の骨子案であり、全体の骨組みとなる大まかな案を示したものです。 基本構想の原稿案には、ご意見を踏まえ、関連性が分かるよう標記について工夫してまいります。
8		2	【2-3 産業構造】について、より詳細なデータを明示すべきである。具体的には、産業別就労人数、企業・法人数、個人事業者数等の推移を示し、今後の主となる産業が何か、必要とされる産業は何かを見極めていくべきである。	国の「まち・ひと・しごと」創生総合戦略等にも示されているとおり、まちづくりの要は仕事づくりである。魅力的な職場づくり・仕事づくりが人口増加のためには不可欠であり、そのための振興施策は総合計画の中でも重要な位置を占める。	資料 1 については、基本構想の骨子案であり、全体の骨組みとなる大まかな案を示したものです。産業関連データや分析結果を踏まえ本市の産業構造・就業構造等の特徴がより分かりやすく把握できるよう、内容について工夫してまいります。
9		2	4. 基本方針（及び今次総合計画）において、第 1 次総合計画に掲げられていた「北杜市の基本理念」はどのような扱いになっているか。同様に、「北杜市民憲章」との関連はどうか。明確にされたい。	北杜市成立の過程で策定された基本理念、市民憲章など先人の築き上げた土台の上にこれからの未来がある。今次の計画においても、整合性をとる箇所、変更が必要な箇所を明示し、これからの未来を一体で提示する文書としたい。	1 次計画時の基本理念をもとに基本コンセプトとして「人と自然と文化が躍動する環境創造都市」を掲げ、まちづくりを推進してきており、その基本コンセプトは 3 次総合計画においても継承します。 市民憲章と総合計画の関連性については、総合計画を策定するにあたっての理念的前提と考えおり、全体の構成等を踏まえ、検討します。
10		2	【4-2 2030 年、北杜市のありたい姿（目指すべき将来像）】において、②“今”が一番幸せ！の「今」とはいつの時点を指しているのか。将来像を語るべきところで、「今が一番」というのはいかがなものか。	本計画は市の未来を市民に示す重要な計画であり、かつ、これからのよい未来を示すものである。「今が一番幸せ」というフレーズは今後の暗い未来との比較で今が一番、とも読めるもので、明るい未来像を示す基本方針の言葉としてはふさわしくない。	第 1 回審議会資料でお示ししたとおり、どの年代においても生きがいを持ち、年齢に関係なく、「人生の中で 2030 年の今が充実している」と言える地域を目指し、「今が一番幸せ！」というフレーズにしました。 また、2030 年にありたい姿にするためには、「今、やるべきことをやろう。」といった気概やモチベーションが重要であり、そのためには「今が一番幸せ」と感じることは大切だと考えます。 「2030 年、北杜市のありたい姿」のキャッチコピー（表現）については、再度検討してまいりますので、その際の貴重なご意見とさせていただきます。

11		2	【4-2 2030 年、北杜市のありたい姿（目指すべき将来像）】において、④“空白”をチャンスに！とあるが、あえて、「空白」という言葉を使う意味は何か。	前項同様、本計画は市の明るい未来を示す計画であり、ネガティブな要件はふまえて作成されている。したがって、将来像にはネガティブな言葉を使わずに文章化していただきたい。	受動的に未来を受け入れるのではなく、より良き未来の形を作っていくための創意工夫として、2030 年の北杜市の未来がどのような社会になるのか、2030 年の未来を考えるインパクトのあるキーワードとして「空白」を使用しています。 多死社会化している北杜市では、人口 減少や高齢化による社会構造の変化は見逃せません。変化により、生じてしまう事業や地域の後継者・担い手不足、空き家・未利用地の増加、農林地の荒廃などの課題を「空白」と表現し、空白とならないように、チャレンジすることが必要と考えています。 「2030 年、北杜市のありたい姿」のキャッチコピー（表現）については、再度検討してまいりますので、その際の貴重なご意見とさせていただきます。
12		3	今回、行財政改革への取り組みが「行財政改革プラン」として総合計画に位置付けられました。 北杜市行政改革推進委員会としても、総合計画の各施策・事業の推進に必要な財政面や推進体制からの下支えに協力していきたいと考えています。 一方で行政改革は聖域がありませんので、総合計画の各施策・事業の効果や必要度の検証も対象になります。総合計画の推進と行政改革のチェック機能を両立する仕組みを構築していく必要があると考えます。	総合計画の進捗状況の検証と、行財政改革プランの進捗状況の検証が相互補完できる仕組みを構築して、双方の目標が達成できるようにしたいと思います。	これまでの総合計画では、具体的な進捗管理の方法や評価検証方法が示されていなかったこともあり、その検証方法についても検討が必要と考えております。 総合計画は非常に幅広い領域をカバーしており、様々な分野の実務者等の視点で評価検証を行う必要があります。 一方で、今回、行政改革推進委員会に諮問している新・行政改革大綱は、財政・組織などが中心のため、そこに精通した専門家の視点を取り入れながら評価検証を行う方法もあるかと考えています。 このため、総合計画と新・行財政改革大綱を同じメンバーで全体を一体的に評価検証することは難しい面がありますが、できるかぎり一体的に検証していける体制や手法を検討していきたいと考えます。
13		1	子供の数を 10 年で 2 倍には、市長の選挙公約であるが、2 倍は厳しい。総合計画においては、可能な限り増やしたい等前向きな姿勢・文言でいい。	10 年後に、検証した結果、今の社会情勢では、絶対に無理。「ああやっぱり」といわれないように	今回、採用したバックキャスティングでは、特性上、高い目標を設定することが基本となります。もちろん「高いだけ」の目標では意味がありません。大切なことは、2030 年に、どんな地域でありたいか、どんな地域になりたいか、を考えることであり、なぜ、何のために高い目標を掲げる必要があるのか、と考えることだと思います。 「10 年間で子どもの数を 2 倍」は、非常に高い目標ではありますが、人口減少がもたらす脅威から、取り返しのつかない状態にならないように、市民の生命、財産、健康をまもる、持続可能な発展を目指すために必要な目標だと考えています。 環境対策の多くもバックキャスティングです。 また、SDGs の 17 のゴールもバックキャスティングで作られており、私たちの世界は 2030 年には、こういう状態になっている必要あると、チ

					チャレンジングな目標が設定されています。 できるできない論ではなく、やらなければならないという決意と気概が成果を生むと考えております。
14		1	【1-4 まちづくり・計画策定の視点】の⑧「持続可能な行財政運営」は「持続可能な行財政運営が・・・されたまちづくり」等はどうか？	「まちづくり」に統一する	ご意見を踏まえ、修正を検討します。
15		3	第1部基本構想の未来の【北杜の姿の5項目（SDGsの理念を踏まえたもの）】は、基本計画の第一章リーディングプロジェクトの6項目とその下部の基本プロジェクトの中にどのように落とし込まれているか。	5つの項目にはSDGsの視点から未来の北杜市の姿を17の目標のアイコンによって振り分けられているが、リーディングプロジェクトの攻守6項目、体系図、その下部の基本プロジェクトのどこに反映されているのか見えづらい。SDGsの視点を取り入れることは時代に則しており、部門別計画の中で取り組む際にも目安となり市民も職員も意識出来ると良いのではないかと考える。	5つの「2030年、北杜市のありたい姿」、基本計画のLP、部門別計画のいずれもSDGsと対応はとれますが、あまり多く紐づけすぎると、わずらわしくなってしまう恐れもあります。 SDGsをどの階層・部分に対応させるかは、今後、計画を策定しながら模索していきます。
16		1	目指すべき将来人口の目標が高すぎはしないか？	日本全体の人口減が現実化しつつある中で、北杜市だけが例外的に増加することは考えにくい。社人研の数字のやや上あたりを目標とすべきではないか？転入者数を他自治体と争ったりすることは企業の営業活動みたいなもので、決してサステナブルではないと思われる。 全体的な縮小局面にうまく対応して行く視点が見えない。	No.13の回答のとおりです。
17		1	少子・超高齢化社会は、「少子・超高齢社会」の誤りです。資料2にもいくつかあります。	高齢化とは7%～14%（高齢化率）、高齢社会（14%以上）、超高齢社会（21%～）です。 定義されています。	ご指摘を踏まえ、修正します。
18		2	どこかに「災害」対策を入れてほしい	近い将来必ず来る災害に対して気もちよく住める環境があれば安心して生活できます	No.6の回答のとおりです。
19		2	4. 基本方針に関して、基本コンセプトも将来像もどこの市にもあてはまりそうで、北杜市らしさがあまり出ていないのでは？（総合計画なので仕方ないか？）	どこの市にもあてはまりあそう	総合計画のため、政策・施策等を全般にわたり網羅的に掲げており、それ故に総花的な印象になってしまうことも認識しておりますが、1つの将来像を掲げ策定する自治体も多い中で、今回の3次総合計画では、北杜市を取り巻く環境変化や時代のニーズに対応したありたい姿を5つ

					掲げ、すべての市民にとってより身近に感じる計画となるよう工夫しているところです。 また、3次総合計画では、これまでの総合計画とは異なり、施策や事業の優先度を明確にするため、新たにリーディングプロジェクトを設定するとともに、部門別計画の主な取組においても、優先度を明確にするなど、そこにどのような意味を持たせるかを充実させ、北杜市らしさを工夫して表現していきたいと考えています。 なお、基本コンセプトは、北杜市発足以来、継承してきている表現で、理念的前提として3次総合計画にも継承するものとしております。
20		1	市の人口は、どんな政策を掲げても減少します。戦略的に小さくなっていくことが求められる時代だと思います。一方で、若者人口を増やすことで子どもを増やすことには大いに賛成です。端的には仕事と住む場所があり、首都圏と変わらないぐらいの給料があれば、未来は明るいと思っています。 余談ではありますが、住む場所（賃貸物件）がなかなか見つからず苦労した経験から、空き家の活用は移住促進に直結すると思います。 都会で住めるようなコンクリートの市営住宅ではなく、開疎な空間を求めて地方に移住したいはずです。市営住宅の新築よりも、空き家の買い上げとリフォームなどを行った上で貸し出しできないものかと思っています。 また計画をまとめることだけで一仕事になっていて、その後、実際にどれだけ達成できたかを途中で評価したり検証する仕組みも必要だと感じています。		ご意見として承ります。 空き屋の活用については、部門別計画での取組を検討します。 評価検証については、No.12 の回答のとおりです。
21			【2030 年、北杜市のありたい姿（目指すべき将来像）】 それぞれの項目が目指すところは理解できるが、もっとインパクトがある挑戦的な文言で明記し、より多くの市民に伝わるような表現方法が良いのではないかと感じました。これまでの総合計画も、結局は何を目指したいのかよく分かりませんでした。 例えば ほくとの宝！”子ども”の笑顔が自分の笑顔になるまち →日本トップ！圧倒的な子育て環境のまち ”今”が一番幸せ！誰もが生きがいをもって幸せを感じるま		3次総合計画は、市民や行政にとって「わかりやすさ」も策定のテーマとしております。委員ご意見の「多くの市民に伝わるようにしたい」という思いは同じです。 「2030 年、北杜市のありたい姿」のキャッチコピー（表現）については、再度検討してまいりますので、その際の貴重なご意見とさせていただきます。

			ち →市民幸福度 No.1 のまち もっと、”世界”を魅了するまち →世界ブランドがあるまち ”空白”をチャンスに！未来にチャレンジするまち →新しい発想とテクノロジーで課題を解決するまち ”サステナブル”デザイン！地域と産業を共創するまち →高付加価値で持続可能性のあるまち		
22		1	【2-1 目指すべき将来の方向性】で取り組む項目の中へ、子育て世代の所得アップ（域内産業の強化）も必要と感じました。 また、「子育て世代等の転入促進」では都市部から移住する方にとって自然環境以外でも魅力を発信する事が重要だと思いました。	「20 歳代の転出抑制」とありますが、この世代が移り住む理由として地域内での就職をした場合の所得に不安があり転出する傾向があると感じたからです。 「子育て世代等の転入促進」では仕事を持って転入される方が多い印象で、自然環境に惹かれる方が多いと感じています。この方々へ必要な事は「暮らしやすさ」と「対話の機会」だと感じています。	【2-1】では、人口構造の構築の取り組みの方向性をお示ししております。委員ご意見の「子育て世代の所得アップ（域内産業の強化）」については、資料2の「LP1-2 の仕事と子育ての両立支援、子育て中の女性への就労、スキル学習支援、LP3-1 の《魅力ある市内就業》市内企業（創業）支援の充実、強化を位置付けており、ご提案の「子育て世代の所得アップ（域内産業の強化）」にその趣旨を包含するものと認識しております。 また、「暮らしやすさ」「対話の機会」については、LP3-2 の《北杜ファンとの協働・共創》の取組内容にその趣旨を包含するものと認識しております。 部門別計画の中でも、具体的な取り組みも検討してまいりますので、その際の貴重なご意見とさせていただきます。
23		2	【2-3 主な産業】の中で第二次産業が産業の要である事を市民に対してアピールする事が必要と感じました。 第一次産業（農業）は規模としては小さく、伸ばしていく事は難しいと考えています。しかし、環境創造という意味では重要で、産業として成り立たせるには第三次産業との連携や気候変動対策（SDG s）のある農業の実践が不可欠だと感じています。	基盤産業の 50%以上が第二次産業だとは知らなかったからです。この産業も北杜市の環境によるもので成り立っているのであれば、アピールに繋がると感じました。 農業は単体で稼ぐ産業ではなく、ブランディングや環境保全、他産業とのマッチングにより付加価値の高まる産業だと思っています。	委員ご意見のとおり、二次産業が雇用を支える基幹産業であり、伝えていく必要があると認識しています。また、農業は規模として小さいですが、産業振興以外にも、多面的な機能があり、それらを踏まえ維持・保全していくことが必要と認識しております。 委員ご意見を踏まえ、基本構想の素案（原稿）の表現を検討してまいります。
24		2	【4-1】「人と自然と文化が躍動する環境創造都市」という基本コンセプトは第一次計画から現在まで色あせない、素晴らしいコンセプトだと思います。 北杜市のありたい姿の中で、特に何に重点を置くのかが必要と感じました。	気候変動や持続性を本気で考えなければならない現在を、見据えて考えられたようなコンセプトです。 「環境創造都市」というワードが端的で特に素晴らしいと思います。普遍的であり市民の誰しもが理解し取り組める方針を定める事が重要だと感じています。 目新しく流行となっているワードや手法を取り入れ	基本構想に示す5つの「2030 年、未来のありたい姿」は、並列の関係にあります。

				て、手段が目的化してしまう事は避けたいと思いました。 北杜市へ移住をして20年以上が経ちますが、自然環境と先人達が作り上げた農村景観は今も変わらず素晴らしいと思っています。また、北杜市職員の方々についても熱意と郷土愛を感じる事が多くあり、学ばせてもらっています。 新しい手段を講じる事も大切ですが、今まで取り組んできた事業をアップグレードする事で改善される事もあるのでは？と感じています。	
25		3	【未来の北杜の姿】5項目、【まちづくりの8つの視点】、いずれも項目が総花的。もう少し絞り込んだ方が良いと思います。	SDGs 目標を全て網羅している印象であり、その必要はないと思います。むしろ、特色ある発展・改革を目指し、また実現可能性を考慮した、エッセンシャルな設定が望ましい。	No.19 の回答のとおりです。 なお、SDGs の目標設定については、No.15 の回答のとおりです。
26		3	「いきがい」を前面に出したスローガン・目標設定を行うのは如何でしょう。	子供、子育て、教育、高齢者、働き場所、安心・安全・・・等、現在あらゆる地域や階層が抱える課題を「いきがい」というキーワードで発信することで、様々な層の市民に共通の目標意識を醸成することが出来る。	「いきがい」については「幸せ」に内包していると認識し、表現しております。 他委員からのご意見等も踏まえ、再度、キャッチコピー（表現）を検討してまいりますので、その際の貴重なご意見とさせていただきます。
27		3	「第3次北杜市総合計画の全体構成イメージ」となっているが、「第1部 基本構想」で、1～2ページの骨子案と合っていない部分がある。 全体構成イメージのスローガンの「北杜新時代 幸せ実感 チャレンジ北杜」は、骨子案では「基本方針」の「基本コンセプト」の副題となっている。全体構成イメージでは、基本コンセプトの副題は「2030年の地域のありたい姿」となっている。 全体構成イメージが骨子案の要約であるとする、骨子案の「2030年、北杜市のありたい姿（目指すべき将来像）」は、基本構想の核となる部分であり、全体構成イメージでは、「現状と課題」との並びで、見出しとして、表記した方がわかりやすい。 また、SDGs の理念と市長の施政方針である「まちづくり	全体構成イメージから膨らませて骨子案を作成するか、骨子案を作成して全体構成イメージに要約するか、また策定過程なので、どちらでも差し支えないが、「言葉」や「考え方」のベースとなるものは、統一した方が分かりやすいため。	ご意見を踏まえ、骨子案と全体構成イメージについて統一した表記に整理します。

			8つの視点」は、目指すべき姿を実現するうえで最大限考慮すべき事項であると考えられ、目指すべき将来像につなげていくような配置にすると骨子案と整合する。		
28		1	もしかしたら次回以降の資料にでてくるかもしれないが、施策、事業をチェック・評価し、PDCAサイクルで計画の進行管理を行う旨の推進体制を記載するか検討が必要である。	前回の資料3の策定方針の3の（4）実効性のある計画策定で、進行管理の仕組みを検討、確立する等の記載あるので、計画本体には記載されると考えられるが、総合計画の概要のベースになる骨子案に入れるかどうか検討が必要のため。	今後の検討のなかで考え方・方法を示す予定です。
29		1	【2-1】合計特殊出生率のこれまでの計画と実態（現在）の乖離やその理由を振り返りたい。 何が良くて、何がダメだったのか。	平成 27 年（2015 年）9 月に作成された北杜市人口ビジョンによると平成 31 年（2019 年）で合計特殊出生率を 1.5 と計画している。しかし実態は 1.5 に届いていない。 計画が無謀なのか、対策が悪かったのか検証が必要。	人口ビジョンに示す合計特殊出生率の目標値は、バックキャストिंगで設定しており、高い目標設定としています。 令和元（2019）年度の合計特殊出生率は、1.35 で目標値を下回っていますが、基準値の平成 26（2014）年度の 1.13 に比べ改善しており、一定の成果はあったと認識しております。 バックキャストिंगにおいては短期的に成果が出にくいこともあり、結果をもって一概に評価は難しいですが、もっと革新的なアイデアを生み出すことができ、アクションを 1 つずつ実行できていれば目標に近づけたかもしれません。 3 次総合計画においては、更に高い目標を設定します。もちろん「高いだけ」の目標では意味がありません。大切なことは、2030 年に、どんな地域でありたいか、どんな地域になりたいか？を考えることであり、なぜ、何のために高い目標を掲げる必要があるのか、と考えることだと思います。 「10 年間で子どもの数を 2 倍」は、非常に高い目標ではありますが、人口減少がもたらす脅威から、取り返しのつかない状態にならないように、市民の生命、財産、健康をまもる、持続可能な発展を目指すために必要な目標だと考えています。 できるできない論ではなく、やらなければならないという決意と気概が成果を生むと考えております。
30		1	【2-1】将来人口の目標グラフが書いてあるが、2030 年以降の人口は減少している。2030 年以降も人口を維持するためには子供の数を何人にしなくてはならないのか。	子供の数を 2 倍、それでも足りないのであれば増やすしかない。この計画はたとえ 2030 年までの目標が達成できたとしても「後は知らない」では終わらない。	当計画については、2030 年までの 10 年間の推進期間として策定しており、それ以降は当該計画の進捗や社会経済情勢等の変化を踏まえ、次期総合計画で検討するものとなります。 人口推計については、我が国はすでに人口減少社会に突入し、急勾配の下り坂を降りていて、人口減少は避けられない状況となっており、本市においても例外ではありません。

					現在の北杜市の人口減少の状況は、第1段階（若年人口は減少するが、高齢者人口は増加する時期）で、2030年頃には第2段階（若年人口の減少が加速化するとともに、高齢者人口が維持から微減へと転じる時期）を迎える推計となっています（第1回審議会資料5、1頁参照）。 北杜市の将来を展望するにあたっては、総人口の推移という視点だけでなく、将来的に持続可能なまちとなるような「人口構造の構築」を目指す必要があることから、3次総合計画では、「子どもの数を2倍」の目標を掲げ、各種施策を講じることにより、0～14歳の自然増、社会増を増やすための取組を重点的に進めてまいります。
31		1	【2-1】目指すべき将来の方向における取り組み「20歳代の転出抑制」は目指すべきではない。	積極的に市外、県外へ転出し学びを得てほしい。その後Uターンしてくれることが理想。 生まれた時から北杜市しか知らず、いつまで経っても小中学生時代の上下関係・人間関係を引き摺っている人、組織が多いことが現状の閉塞感に繋がっているともいえる。これは市役所内でも同様。 山梨県、北杜市はよく「東京に近い」ことを移住者へのメリットとして挙げているが、これは県民、市民にとっても気軽に東京へ転出できるメリットとなっている。そこは若い世代には上手く利用してもらいたい。	本市の若者が、市の内外を問わず多様な場所や機会を通じて積極的に自己の能力や見識を高めることは、北杜市の将来を担う人材育成の面からも重要であると認識しており、進学や学びの機会の選択肢を狭めるという意味ではありません。ここで示している「20歳代の転出抑制」の趣旨は、若い世代に選んでもらえるような魅力ある地域づくりや機会の創出に取り組む市の方針を示したもので、具体的には「LP1-1の子育てするなら北杜！選ばれる支援体制をつくる」や「LP3-1の若い世代に選ばれる地域をつくる」などに取り組みます。 基本構想の素案（原稿）での表現については、委員のご意見の趣旨を踏まえ、補足等対応します。
32		3	「第1部基本構想」の4つのバックキャスティングが「第2部基本計画」のどれに繋がっているかわからない。	つながりが明確になっていれば、リーディングプロジェクトで取り組む内容が「ありがたい姿」になるために合致しているか振り返ることができ、場合によっては軌道修正できる。	対応表を作成します。
33		2	【4-2 2030年、北杜市のありたい姿（目指すべき将来像）】の「③もっと、“世界”を魅了するまち」にSDGsの「14 海洋資源」を入れてはどうか。その目標に「まちの中で発生した汚染が河川等を通じて海洋に流れ出ることがないように、臨海都市だけでなくすべての自治体汚染対策を講じることが重要」とある。海のない山梨でも無縁ではない。	河川清掃時にペットボトルやビニール袋等のゴミの多さに驚かされる。 海洋ではマイクロプラスチックが問題となっている。海に通じる河川を持つものの責任として、プラスチックゴミの削減に取り組むことが、基本コンセプトである「環境創造都市」の達成に寄与でき、その取り組む姿勢は移住者を魅了すると思われる。	SDGsの目標設定については、No.15の回答のとおりです。
34		ー	全体的な話として、ショートインターバルでのチェック＆アクションをする旨も（進捗報チェック体制）計画に入れ	定期的な進捗状況や取り組み内容が実効のあるものとなっているかをチェックし、必要により計画の見	ご委員ご意見のとおり課題解決を進めていくうえでは、より最適な手法に変えていくスピード感が求められているため、評価のサイクルを早

			たほうが良い	直しをするため。	める工夫を検討したいと考えています。
35		1	「まち・ひと・しごと創生総合戦略」と「行財政改革プラン」それぞれの資料をいただきたい。	1-3 計画の構成・期間の中に、「『まち・ひと・しごと創生総合戦略』と『行財政改革プラン』との一体的な推進を図るため、総合計画に一体化します」とあり、その内容を知る必要があるため。	第1回審議会説明及び資料2でお示ししたとおり、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」はリーディングプロジェクトと位置付けており、具体的内容は基本計画の部門計画で示します。 また、行財政改革大綱については、総合計画の策定と並行して、行財政改革推進委員会に独立型の新たな大綱の策定を諮問し、策定を進めております。総合計画の素案を審議会にお示しする際に、併せてお示しする予定です。
36		2	【2-3主な産業】で挙げられている産業のうち、どれを、どのように振興していくのか？	「将来的に持続可能なまちとなるような人口構造の構築を目指す必要」に照らして選択的に産業の振興を図ることが、目的を達成するには有効と考えられるため。	具体的な施策については、資料2のリーディングプロジェクトや今後、部門別計画で示してまいります。
37		2	【4-2 2030 年、北杜市のありたい姿（目指すべき将来像）は、北杜市の大目標である「10 年間で子どもの数を 2 倍」に即した「北杜市のありたい姿」（ほくとの宝！“子ども”の笑顔が自分の笑顔になるまち）を重点的に選取り、それを軸にしてまちづくりを展開させた方がいい。	五つの「目指すべき将来像」相互の整合性をとることができていない。それぞれの「将来像」の間の関連が見えない。総花的な計画では、「市民にまちづくりの長期的な展望を示すもの」にはならないため。	骨子案は、基本コンセプト（将来像）「人と自然と文化が躍動する環境創造都市」を実現するため、市長の掲げるまちづくりの8つの視点や地域社会経済の現状、時代潮流等を踏まえ、10 年後のありたい姿とその方向性を示したものであります。